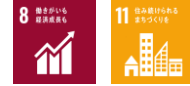


2022年3月23日
株式会社京葉銀行



株式会社レオ・コーポレーションとの 不動産ノンリコースローンの取り組みについて

株式会社京葉銀行（頭取 熊谷 俊行）は、本日、株式会社レオ・コーポレーション（代表取締役 吉村 太佑 以下、レオ・コーポレーション）が資産流動化法に基づく私募ファンドを活用した不動産証券化の実施に際し、単独で特定貸付契約（金銭消費貸借契約）および特定社債引受契約を実行しましたのでお知らせいたします。

不動産の証券化とは、不動産の保有者（オリジネーター）が当該不動産を特定目的会社に譲渡し、特定目的会社はその不動産から生み出されるキャッシュフロー等を返済原資として資金調達を行う仕組みです。不動産を活用したスキームであり、財務体質の強化や資金調達余力の拡大など、「持続的な成長を目指す企業」が活用するストラクチャーです。

今回、レオ・コーポレーションは保有する不動産（レオステーションフロント鬼越）を、資産流動化法に基づき特定目的会社に売却し、当行は単独で特定目的会社に対し、当該不動産の購入資金としてノンリコースローンを実行いたしました。私募ファンドは、レオ・コーポレーションがアセットマネージャーを受託、出資者は千葉県内企業と「オール千葉」での本件取り組みにより、千葉県内におけるさらなる不動産マーケットの活性化が期待されます。

当行は、今後も地域金融機関として、お客さまの課題解決に向けて多様な資金調達手段を積極的に提供していくとともに、企業の事業活動を支援することで、持続可能な地域社会の発展に貢献してまいります。

1、本件概要

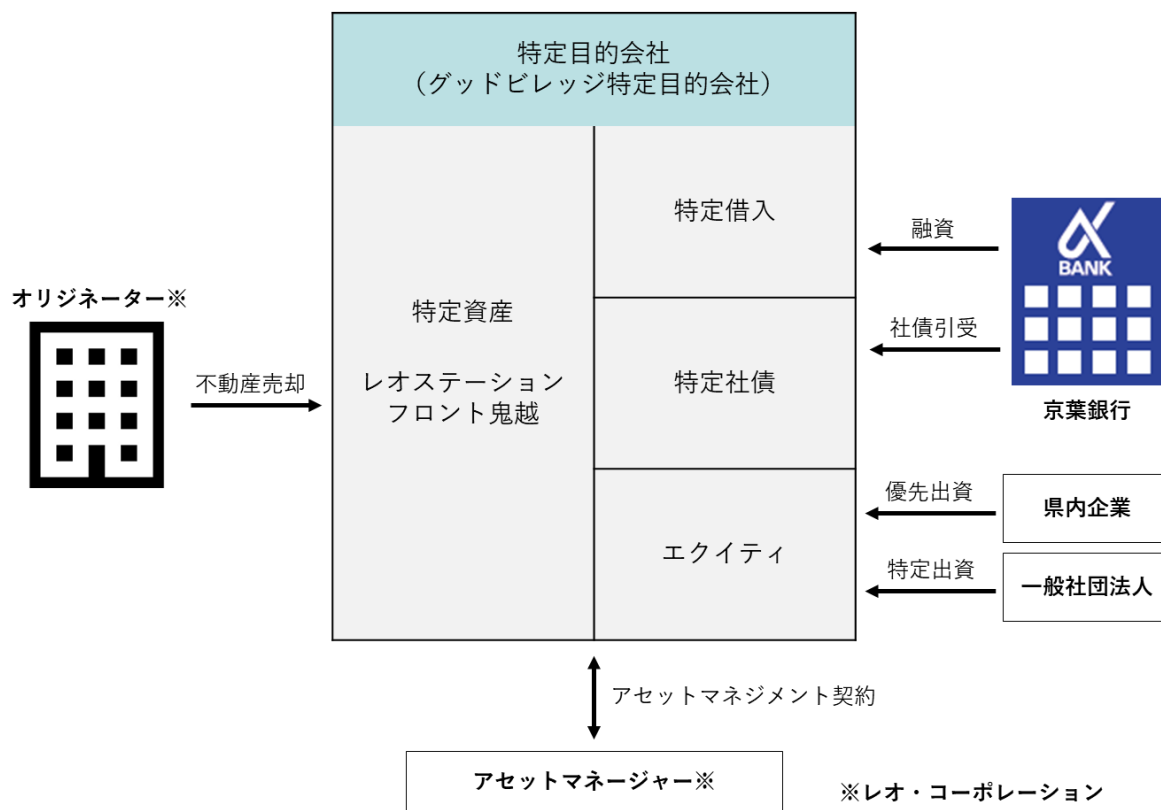
(1) 特定貸付


貸付人	当行
貸付形態	金銭消費貸借契約（ノンリコースローン）
契約締結日	2022年3月16日
融資金額	非開示

(2) 特定社債

総額引受人	当行
社債形態	特定社債（資産流動化法第124条に基づく総額引受）
契約締結日	2022年3月16日
引受金額	非開示

2、ストラクチャー概要





京葉銀行ではSDGsへの取り組みに関するニュースリリースに、「SDGs 17の目標アイコン」を標示しています。

【SDGs : Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)】
2015年9月に国連で採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のこと。17のゴール・169のターゲットから構成される。

以上